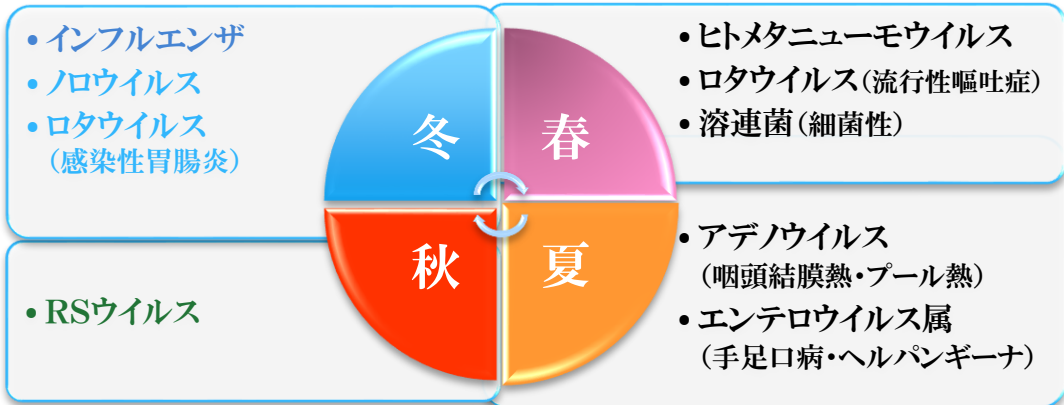




秋～冬に注意したい子供の感染症～

子供は大人に比べて免疫が未発達なため、様々な病気にかかりやすいものです。重症化もしやすく注意が必要です。今回はこれからの季節(秋～冬)にかけて注意したい感染症についてご紹介致します。



RSウイルス

- 軽い「鼻かぜ」程度から細気管支炎(息を吐くときにゼーゼー、ヒューヒューという音が特徴)や肺炎に至るまで症状は様々です。
- ほとんどの場合1～2週間で回復しますが、乳幼児(特に生後6ヶ月以内)の場合は重症化しやすく注意が必要です。
- 一度かかっても免疫が出来にくいいため、繰り返し感染しながら徐々に免疫を獲得します。



インフルエンザウイルス

- 突然の38℃以上の高熱と全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が起こり、続いてのどの痛みやせきなどが現れます。
- 重症化を防ぐためにも予防接種は大切です。ワクチンの効果は5ヶ月程度しか持続しないため、毎年流行シーズン前に接種するようにしましょう。



ノロウイルス *胃腸炎

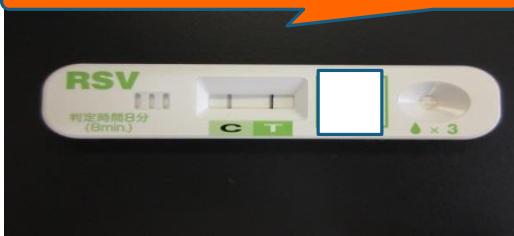
- 突然吐き気や嘔吐を発症し、続いて下痢・腹痛が起こるのが特徴です。
- 体力の弱い乳幼児では、下痢による脱水症状や合併症により重症化することがあるので注意が必要です。
- 感染力が強く、症状がおさまっても2～3週間はウイルスが排出されていることがあるので注意しましょう。



ロタウイルス *胃腸炎

- 米のとぎ汁のような白色の下痢便が特徴です。
- 発熱と嘔吐で発症し、それに続いて頻回の下痢がみられます。
- 下痢の程度はウイルス性の中では一番重く、乳幼児では脱水に注意が必要です。

ウイルスなどの感染症の診断は！？



日常診療でウイルス感染の診断をする方法に「迅速診断キット」があります。鼻水や喉の粘膜を採取した綿棒、便などから簡単に調べることができて結果が数分で分かる便利なものです！
しかし、**検査を受ける時期が重要**となるため、場合によっては本来陽性のはずが陰性になってしまうこともあるので注意しましょう。
インフルエンザの検査のタイミングは発症後12時間～48時間が最適と考えられています。

